

第 227 回 浜田市教育委員会定例会

日 時： 令和 6 年 5 月 28 日（火） 14 時 30 分から

場 所： 浜田市役所本庁 4 階講堂 AB

出席者： 岡田教育長 杉野本委員 岡山委員 倉本委員 浅津委員

事務局： 草刈部長 藤井課長 龍河担当課長 山口課長 永田担当課長

鳥居室長 松井課長 山本課長

（書記 日ノ原係長 皆田主任主事）

1 教育長報告

2 議題

- (1) 浜田市スポーツ推進審議会条例及び浜田市資料館運営協議会条例の一部を改正する条例について …… 資料 1
- (2) 浜田市社会教育委員の選任について …… 資料 2
- (3) 教育長の職務に専念する義務の免除の承認について …… 資料 3

3 部長、課長等報告事項

- (1) 教育部長
- (2) 教育総務課長 …… 資料 4、5
- (3) 教育総務課幼児教育担当課長 …… 資料 6
- (4) 学校教育課長 …… 資料 7
- (5) 学力向上推進室長 …… 資料 8
- (6) スポーツ振興課長兼高校総体・国スポ・全スポ推進室長 …… 資料 9

(7) 文化振興課長兼神楽文化伝承室長

…… 資料 10、11

4 その他

(1) その他

※次回定例会日程 令和6年6月28日(金)14時30分から
場所：浜田市役所本庁4階講堂AB

※次々回定例会日程 令和6年7月 日() 時 分から

第227回浜田市教育委員会定例会・教育長報告

令和6年5月28日

月日	内容
4月26日 (金)	定例課長会議 (市役所講堂)
4月27日 (土)	石見陸上競技大会 (浜田市陸上競技場) 驛鈴でつなぐ友好の会総会 (浜田まちづくりセンター)
4月28日 (日)	石見地区中学校春季バスケットボール大会 (ふれあいジムかなぎ) スプリングコンサートinはまだ (石央文化ホール)
5月 1日 (水)	定例校長会 (中央図書館)
5月 7日 (火)	総合教育会議 (庁議室)
5月 9日 (木)	全国都市教育長協議会定期総会・研究大会 (長崎市)
5月10日 (金)	同上
5月14日 (火)	HAMADA教育魅力化コンソーシアム役員会 (中央図書館) 島根県知事・教育長国県要望活動 (島根県庁)
5月15日 (水)	総務文教委員会 浜田市子ども安全連絡協議会 (市総合福祉センター) 浜田高校定時制・通信制支援協議会 (浜高定時制・通信制会議室)
5月16日 (木)	浜田市美術展実行委員会 (第2東分庁舎南会議室) B&G中国ブロック海洋センター連絡協議会 (みさと館)
5月20日 (月)	浜田市スポーツ推進委員連絡協議会 (浜田まちづくりセンター)
5月21日 (火)	定例課長会議 (市役所講堂) 浜田市体育協会総会 (浜田まちづくりセンター)
5月22日 (水)	浜田地区租税教育推進協議会定期総会 (市総合福祉センター)
5月23日 (木)	浜田市小学校陸上大会 (浜田市陸上競技場) 浜田市行財政改革推進本部会議幹事会 (市役所講堂)
5月24日 (金)	全員協議会 (全員協議会室) 島根県高校総体 (柔道・石見武道館) 石見神楽伝承内容検討専門委員会 (中央図書館)
5月26日 (日)	島根県中学校浜田ブロック体操大会 (県体)
5月27日 (月)	教職員評価システム管理職面接
5月28日 (火)	浜田市教育委員会定例会 (市役所講堂)

提案条例説明資料

担当部名称 教育委員会

1	議案番号	議案第〇号
2	題名	浜田市スポーツ推進審議会条例及び浜田市資料館運営協議会条例の一部を改正する条例
3	目的・理由	令和6年度の機構改革により、教育委員会の機構が変更となったことに伴い、所要の改正を行うものです。
4	概要	<p>1 浜田市スポーツ推進審議会条例の一部改正（第1条） 審議会の庶務担当課の変更（第7条関係） 文化スポーツ課 ⇒ スポーツ振興課</p> <p>2 浜田市資料館運営協議会条例の一部改正（第2条） 協議会の庶務担当課の変更（第7条関係） 文化スポーツ課 ⇒ 文化振興課</p>
5	施行期日等	公布の日

浜田市スポーツ推進審議会条例（平成17年浜田市条例第323号）新旧対照表（下線部分が改正箇所）

現行	改正後（案）
<p>(庶務)</p> <p>第7条 審議会の庶務は、文化スポーツ課において処理する。</p>	<p>(庶務)</p> <p>第7条 審議会の庶務は、スポーツ振興課において処理する。</p>

浜田市資料館運営協議会条例（平成17年浜田市条例第324号）新旧対照表（下線部分が改正箇所）

現行	改正後（案）
<p>(庶務)</p> <p>第7条 協議会の庶務は、文化スポーツ課において処理する。</p>	<p>(庶務)</p> <p>第7条 協議会の庶務は、文化振興課において処理する。</p>

浜田市スポーツ推進審議会条例及び浜田市資料館運営協議会条例の一部を改正する条例

(浜田市スポーツ推進審議会条例の一部改正)

第 1 条 浜田市スポーツ推進審議会条例（平成 17 年浜田市条例第 323 号）の一部を次のように改正する。

第 7 条中「文化スポーツ課」を「スポーツ振興課」に改める。

(浜田市資料館運営協議会条例の一部改正)

第 2 条 浜田市資料館運営協議会条例（平成 17 年浜田市条例第 324 号）の一部を次のように改正する。

第 7 条中「文化スポーツ課」を「文化振興課」に改める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

令和 6 年 5 月 28 日
教育委員会定例会資料
学 校 教 育 課

浜田市社会教育委員の選任について

社会教育法第 15 条の規定により次のとおり社会教育委員の委嘱を求めます。

件 名 浜田市社会教育委員
名 簿 別紙案のとおり(13 名)
任 期 令和 6 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで

令和6年度・令和7年度 浜田市社会教育委員名簿

番号		氏名	性別	基準	所属・その他	地域 枠
1	新	久佐 日佐志	男	1	校長会	
2	新	岡本 康宏	男	1	浜田市 PTA 連合会	
3	継	中村 公一	男	1	浜田市まちづくりセンター合同連絡会	
4	継	楨内 京子	女	1	浜田市スポーツ推進委員	
5	継	田中 耕太郎	男	1	浜田市文化協会 会長	
6	新	柳川 智己	女	2	しまね子どもの読書等推進の会 浜田支部代表	
7	継	渡辺 支帆子	女	1	共育コーディネーター	
8	継	佐々木 幸子	女	1	全日本同和会島根県連合会 浜田支部 女性部長	浜田
9	新	花田 香	女	2	家庭教育関係者	浜田
10	継	大崎 嘉光	男	1	教育行政経験者	金城
11	継	藤本 宏征	男	1	放課後子ども教室 放課後支援員	旭
12	継	大塚 美穂	女	1	社会教育士	弥栄
13	継	富金原 完	男	1	教育行政経験者	三隅

基準

- (1) 学校教育及び社会教育の関係者
- (2) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (3) 学識経験のある者

令和 6 年 5 月 28 日
教育委員会定例会資料
教 育 総 務 課

教育長の職務に専念する義務の免除の承認について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 11 条第 5 項の規定に基づく
浜田市職員の職務に専念する義務の特例に関する条例第 2 条の規定により、
「教育長の職務に専念する義務の免除について」を浜田市長の権限に属する
事務の委任及び補助執行に関する規則第 2 条第 3 項の規定により、教育委員
会に承認を求めます。

	(1) 研修を受ける場合	(2) 福利厚生に関する 計画に参加する場合	(3) 市長が定める場合
職務専念義務の区分及び内容	<p>内 容</p> <p>島根県市町村職員共済組合が実施する人間ドック検査受診</p> <p>※根拠規定</p> <ul style="list-style-type: none"> ○浜田市職員の職務に専念する義務の特例に関する条例第 2 条第 3 号 ○浜田市職員の職務に専念する義務の特例に関する規則第 2 条第 4 号 		
理 由	<p>受診者の疾病の予防、早期発見に寄与し、健康増進を図ることを目的として人間ドックを受診する。</p>		
日 時	<p>令和 6 年 6 月 3 日 (月) 時 分から</p> <p>令和 6 年 6 月 3 日 (月) 時 分から (1 日 時間)</p>		
所在場所	<p>浜田市浅井町 777 番地 12</p> <p>独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター</p>		

行事等予定表

5月28日 ~ 6月30日

月日	曜日	開始 ~ 終了	内容	場所	担当課	教育委員	備考
4月5日~5月31日							
5月29日	(水)	9:00 ~	併設コーナー展「令和5年度市民寄贈資料披露展」	浜田郷土資料館	文化振興課		
6月1日~7月7日							
5月29日	(水)	9:00 ~	島根県中学校浜田ブロック大会(陸上)	益田陸上競技場	学校教育課		浜田市主管
6月5日~7日	(水~金)	~	企画展「生誕120年記念『橋本明治展~作品ができるまで~』」	世界こども美術館	文化振興課		
6月5日~7日	(水~金)	9:00 ~	島根県中学校浜田ブロック大会(ソフトテニス)	江津市民庭球場	学校教育課		
6月5日~7日	(水~金)	10:00 ~	島根県中学校浜田ブロック大会(野球)	浜田市民球場 外	学校教育課		浜田市主管
6月6日	(木)	9:50 ~	島根県中学校西部柔道大会	石見武道館	学校教育課		浜田市主管
6月6日	(木)	10:15 ~	島根県中学校浜田ブロック大会(剣道)	邑智中体育館	学校教育課		
6月6日~7日	(木・金)	8:30 ~	島根県中学校浜田ブロック大会(卓球)	大田総合体育館	学校教育課		
6月6日~7日	(木・金)	9:00 ~	島根県中学校浜田ブロック大会(サッカー)	サンビレッジ浜田	学校教育課		浜田市主管
6月6日~7日	(木・金)	9:00 ~	島根県中学校浜田ブロック大会(バスケットボール)	県立体育館 外	学校教育課		浜田市主管
6月6日~7日	(木・金)	9:30 ~	島根県中学校浜田ブロック大会(バレーボール)	江津市民体育館 外	学校教育課		
6月8日~8月25日			企画展「石正美術館 動物コレクション展『日本画ZOO』」	石正美術館	文化振興課		
6月27日	(木)	18:30 ~ 20:30	石見神楽伝承内容検討専門委員会	中央区書館	神楽文化伝承室		
6月28日	(金)	14:30 ~	第228回教育委員会定例会	本庁4階講堂AB	教育総務課	○	
		~					
		~					
		~					
		~					
		~					
		~					

資料5

令和6年5月28日
教育委員会定例会資料
教育総務課

令和5年度浜田市立図書館の利用状況について

1 各館の利用実績

カッコ内：令和4年度実績

項目(単位)	中央	金城	旭	弥栄	三隅	合計
来館者数(人)	127,938 (127,644)	4,194 (4,343)	4,446 (4,289)	458 (493)	17,050 (14,927)	154,086 (151,696)
利用者数※(人)	62,741 (62,433)	2,943 (3,174)	2,465 (2,603)	458 (493)	6,544 (6,263)	75,151 (74,966)
個人貸出点数※(点)	204,458 (206,318)	10,247 (11,242)	7,965 (8,357)	1,226 (1,504)	24,616 (25,663)	248,512 (253,084)
利用団体数(件)	201 (197)	40 (19)	8 (8)	0 (0)	23 (34)	272 (258)
団体貸出冊数(冊)	9,319 (9,062)	321 (551)	111 (121)	0 (0)	496 (817)	10,247 (10,551)
予約・リクエスト 受付件数※(件)	13,124 (12,316)	346 (484)	377 (418)	42 (22)	279 (265)	14,168 (13,505)
レファレンス 受付件数※(件)	2,186 (1,850)	771 (893)	418 (397)	0 (0)	414 (376)	3,789 (3,516)
蔵書数※(冊)	210,606 (208,156)	22,410 (21,808)	23,344 (22,219)	5,849 (5,455)	41,217 (40,071)	303,426 (297,709)
開館日数(日)	327 (326)	302 (300)	302 (300)	302 (300)	299 (297)	—

※の項目には、移動図書館車の実績を含む

2 電子書籍の利用状況

(単位：点)

	令和5年度	令和4年度
電子書籍コンテンツ数	2,075	1,867
貸出点数	320	308

3 参考

	令和5年度	令和4年度
浜田市人口(年度末)	49,096人	50,129人
個人貸出冊数	248,512冊	253,084冊
市民1人当たりの貸出冊数	5.06冊	5.05冊

令和6年度幼児教育・保育施設の変更点と未就学児童の状況について

1 令和6年度幼児教育・保育施設の変更点について

- (1) 「保育所型認定こども園」から「幼保連携型認定こども園」へ移行した施設
・認定こども園ながさわ子ども園

2 浜田市の未就学児童及び施設入所(園)児童の状況について

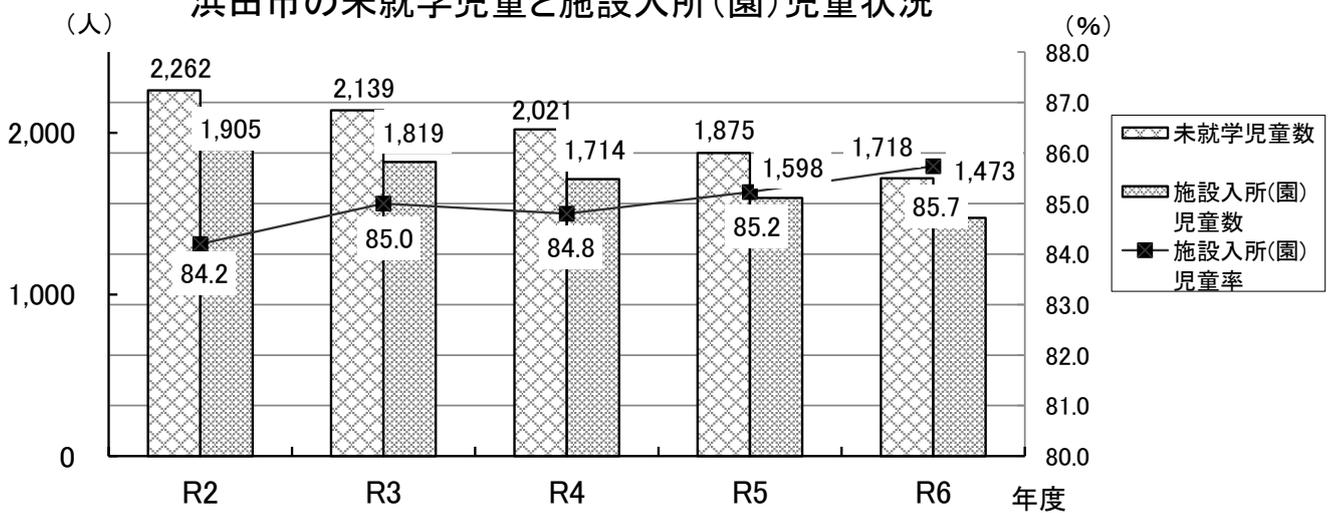
各年度4月1日現在

年度	人口 人	未就学 児童数 人	施設入所(園) 児童数 人	施設入所(園) 児童率 %	施設別入所(園)状況		
					保育所 人	認定こども 園 人	幼稚園 人
R2	52,834	2,262	1,905	84.2	1,764	48	93
R3	52,145	2,139	1,819	85.0	1,658	78	83
R4	51,057	2,021	1,714	84.8	1,572	76	66
R5	50,129	1,875	1,598	85.2	1,468	71	59
R6	49,096	1,718	1,473	85.7	1,381	52	40

※保育所は、認可外保育施設を含む。

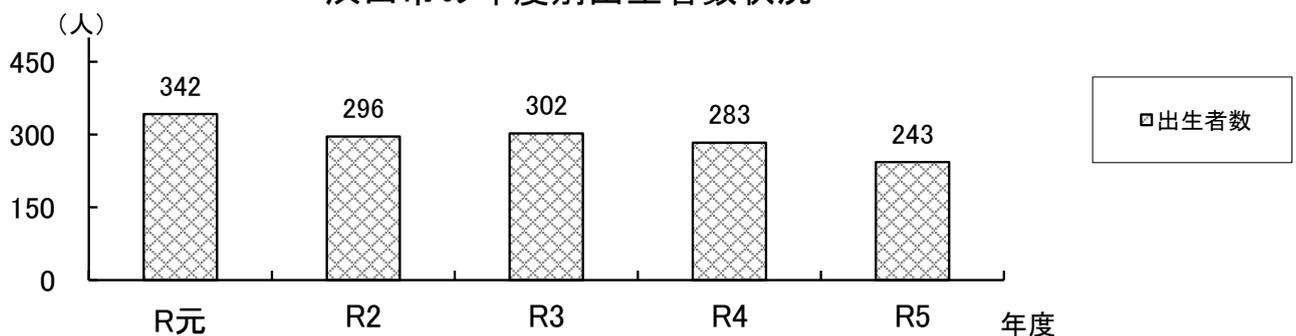
浜田市の未就学児童と施設入所(園)児童状況

(各年度4月1日現在)



浜田市の年度別出生者数状況

(各年度中出生者数)



○浜田市の未就学児童の状況について

1 人口構成等の状況 (R6.4.1現在)

地域	人口	世帯数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	R5年	増減(R6-R5)
浜田	36,541	18,749	201	236	222	221	231	261	1,372	1,479	△ 107
金城	3,792	1,820	10	21	19	18	15	26	109	119	△ 10
旭	2,426	1,253	11	8	15	16	17	16	83	89	△ 6
弥栄	1,084	621	1	1	2	4	4	6	18	24	△ 6
三隅	5,253	2,687	16	15	24	23	31	27	136	164	△ 28
合計	49,096	25,130	239	281	282	282	298	336	1,718	1,875	△ 157

2 施設の入所状況 (R6.4.1現在)

地域		施設数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計	R5年	増減(R6-R5)
浜田	私立保育所	12	33	127	124	120	125	138	667	701	△ 34
	こども園(保育)	5	25	68	78	67	74	87	399	424	△ 25
	こども園(幼児)		-	-	-	13	10	14	37	54	△ 17
	公立幼稚園	1	-	-	-	6	6	10	22	27	△ 5
	私立幼稚園	1	-	-	-	3	8	7	18	31	△ 13
	認可外保育施設	1	1	8	2	4	4	3	22	18	4
	計	20	59	203	204	213	227	259	1,165	1,255	△ 90
金城	私立保育所	4	4	19	16	18	14	26	97	97	0
	計	4	4	19	16	18	14	26	97	97	0
旭	こども園(保育)	1	3	6	9	9	9	8	44	49	△ 5
	こども園(幼児)		-	-	-	5	4	6	15	17	△ 2
	計	1	3	6	9	14	13	14	59	66	△ 7
弥栄	こども園(保育)	1	1	1	2	2	5	5	16	21	△ 5
	こども園(幼児)		-	-	-	0	0	0	0	-	-
	計	1	1	1	2	2	5	5	16	21	△ 5
三隅	私立保育所	3	3	13	20	23	29	23	111	128	△ 17
	計	3	3	13	20	23	29	23	111	128	△ 17
広域※	広域保育所	-	1	3	2	3	4	1	14	17	△ 3
	広域こども園(保育)	-	1	1	2	2	0	3	9	10	△ 1
	広域小規模A型	-	0	0	2	0	0	0	2	3	△ 1
	広域幼稚園	-	-	-	-	0	0	0	0	1	△ 1
	計	-	2	4	6	5	4	4	25	31	△ 6
合計	私立保育所	19	40	159	160	161	168	187	875	926	△ 51
	広域保育所	-	1	3	2	3	4	1	14	17	△ 3
	こども園(保育)	7	29	75	89	78	88	100	459	494	△ 35
	認可外保育施設	1	1	8	2	4	4	3	22	18	4
	広域こども園(保育)	-	1	1	2	2	0	3	9	10	△ 1
	広域小規模A型	-	0	0	2	0	0	0	2	3	△ 1
	小計	27	72	246	257	248	264	294	1,381	1,468	△ 87
	こども園(幼児)	-	-	-	-	18	14	20	52	71	△ 19
	公立幼稚園	1	-	-	-	6	6	10	22	27	△ 5
	私立幼稚園	1	-	-	-	3	8	7	18	31	△ 13
	広域幼稚園	-	-	-	-	0	0	0	0	1	△ 1
	小計	2	0	0	0	27	28	37	92	130	△ 38
	合計	29	72	246	257	275	292	331	1,473	1,598	△ 125
施設入所児童率			30.1%	87.5%	91.1%	97.5%	98.0%	98.5%	85.7%	85.2%	0.5%
施設未利用者			167	35	25	7	6	5	245	277	△ 32

※広域とは市外を意味しており、浜田市の乳幼児が市外の施設に入所する場合は「広域入所」と言います。

令和6年5月28日
教育委員会定例会資料
学校教育課

令和6年度 学校別児童生徒数一覧表

1 小学校

令和6年5月1日 現在

学校名	令和6年度									令和5年度	増減
	種別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特	合計	合計	
原井小	児童数	(4) 42	(1) 46	(1) 38	(4) 30	(1) 47	(3) 33	14	250	192	58
	学級数	2	2	2	1	2	1	2	[2] 12	10	2
雲雀丘小	児童数									57	△ 57
	学級数									7	△ 7
松原小	児童数	(1) 12	17	(1) 19	(1) 17	(1) 15	(3) 22	7	109	110	△ 1
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	[2] 8	8	
石見小	児童数	(1) 50	(2) 42	(2) 51	(4) 46	(2) 59	(1) 51	12	311	338	△ 27
	学級数	2	2	2	2	2	2	3	[3] 15	16	△ 1
美川小	児童数	7	10	8	(3) 10	15	(1) 8	4	62	70	△ 8
	学級数	1	1	1	1	1	1	1	[1] 7	7	
周布小	児童数	(2) 37	35	(6) 40	(1) 46	(2) 34	44	11	247	253	△ 6
	学級数	2	2	2	2	1	2	3	[3] 14	14	
長浜小	児童数	(4) 33	(1) 37	(1) 42	42	(2) 32	(1) 47	9	242	243	△ 1
	学級数	2	2	2	2	1	2	3	[3] 14	14	
国府小	児童数	(3) 54	(3) 54	(3) 40	(6) 43	(4) 53	(2) 37	21	302	307	△ 5
	学級数	2	2	2	2	2	2	4	[4] 16	16	
三階小	児童数	(2) 36	(1) 33	34	(2) 30	(4) 35	(1) 33	10	211	207	4
	学級数	2	2	1	1	1	1	3	[3] 11	11	
雲城小	児童数	(1) 16	(3) 22	(2) 22	(3) 31	17	(5) 13	14	135	140	△ 5
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	[2] 8	8	
今福小	児童数	2	6	(2) 6	7	(2) 3	5	4	33	40	△ 7
	学級数	1		1		1		2	[2] 5	6	△ 1
波佐小	児童数	2	1	3	4	1			11	11	
	学級数	1		1		1			3	3	
旭小	児童数	13	17	22	(1) 19	14	(2) 22	3	110	119	△ 9
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	[2] 8	8	
弥栄小	児童数	(1) 8	4	(1) 7	4	10	5	2	40	36	4
	学級数	1	1	1		1		1	[1] 5	4	1
三隅小	児童数	(1) 28	(1) 28	(1) 26	31	(2) 23	(3) 32	8	176	171	5
	学級数	1	1	1	1	1	1	2	[2] 8	8	
岡見小	児童数	6	6	8	6	(2) 5	7	2	40	47	△ 7
	学級数	1	1	1		1		2	[2] 6	7	△ 1
計	児童数	(20) 346	(12) 358	(20) 366	(25) 366	(22) 363	(22) 359	121	2,279	2,341	△ 62
	学級数	21	19	20	15	18	15	32	[32] 140	147	△ 7

※()は特別支援学級に入る児童の外数 []は特別支援学級の学級の内数

※第1学年は30人・2学年は32人学級編制

※第3・4・5・6学年は35人学級編制

※事務職員未配置→波佐小

【参考】 標準学級数（文部科学省基準）・・・1クラス1～5年35人、6年40人
実学級数（少人数学級編制）・・・1クラス1年30人、2年32人、3～6年35人

2 中学校

令和6年5月1日 現在

学校名	令和6年度						令和5年度	増減
	種別	1年	2年	3年	特	合計	合計	
第一中	生徒数	(2) 133	(6) 114	(4) 115	12	374	364	10
	学級数	4	4	4	3	[3] 15	15	
第二中	生徒数	(1) 35	40	(2) 51	3	129	142	△ 13
	学級数	1	2	2	2	[2] 7	8	△ 1
第三中	生徒数	(3) 86	(4) 109	90	7	292	285	7
	学級数	3	4	3	2	[2] 12	12	
第四中	生徒数						5	△ 5
	学級数						2	△ 2
浜田東中	生徒数	(1) 53	(5) 39	(2) 47	8	147	142	5
	学級数	2	2	2	4	[4] 10	10	
金城中	生徒数	(2) 26	(1) 23	(2) 36	5	90	96	△ 6
	学級数	1	1	1	2	[2] 5	4	1
旭中	生徒数	(1) 16	(3) 24	(1) 15	5	60	62	△ 2
	学級数	1	1	1	2	[2] 5	5	
弥栄中	生徒数	4	8	8		20	22	△ 2
	学級数	1	1	1		3	4	△ 1
三隅中	生徒数	(2) 35	(4) 39	(2) 25	8	107	109	△ 2
	学級数	1	2	1	2	[2] 6	7	△ 1
計	生徒数	(12) 388	(23) 396	(13) 387	48	1,219	1,227	△ 8
	学級数	14	17	15	17	[17] 63	67	△ 4

※()は特別支援学級に入る生徒の外数 []は特別支援学級の学級の内数

※第1学年は35人、第2・3学年は38人学級編制(少人数学級編成)

【参考】 標準学級数(文部科学省基準)・・・1クラス1～3年40人
実学級数(少人数学級編制)・・・1クラス1年35人、2～3年38人

3 小・中学校全体

令和6年5月1日 現在

区分		児童生徒数			学級数		
		R5年度	増減	R5年度	増減		
1_小学校	1_通常学級	2,158 人	2,234 人	△ 76 人	108 学級	114 学級	△ 6 学級
	2_特別支援学級	121 人	107 人	14 人	32 学級	33 学級	△ 1 学級
	小計	2,279 人	2,341 人	△ 62 人	140 学級	147 学級	△ 7 学級
2_中学校	1_通常学級	1,171 人	1,176 人	△ 5 人	46 学級	50 学級	△ 4 学級
	2_特別支援学級	48 人	51 人	△ 3 人	17 学級	17 学級	0 学級
	小計	1,219 人	1,227 人	△ 8 人	63 学級	67 学級	△ 4 学級
全体	1_通常学級	3,329 人	3,410 人	△ 81 人	154 学級	164 学級	△ 10 学級
	2_特別支援学級	169 人	158 人	11 人	49 学級	50 学級	△ 1 学級
	合計	3,498 人	3,568 人	△ 70 人	203 学級	214 学級	△ 11 学級

第2回(5月)市校長会資料

令和6年5月1日(火)

学力向上推進室

1 全国・学力学習状況調査について **資料A**

全国学力・学習状況調査や県学力調査等の結果分析から明らかになっている浜田市児童生徒の課題は
限られた時間で、多くの情報の中から課題解決に必要な情報を収集して考え、根拠を明確にして筋道を立てて表現(文章、式、図、音声言語など)する力

であることは、これまで何度も伝えてきています。

本年度の調査問題からも、この力に関する出題傾向が年々強くなってきていると感じましたが、皆さんはいかがでしょうか。

4月の校長会で小学校に実施を依頼した令和5年度の算数問題に関する調査も、この力に関する設問です。また、本年度の算数においても以下のように同様な設問がありました。

2
トラック1台で、350 kgの米を運ぶことができます。
(1) まず、あやのさんたちは、このトラック2台では、何kgの米を運ぶことができるかについて考えました。

あやの
350 × 2 = 700で、700 kgの米を運ぶことができます。

次に、このトラック16台では、何kgの米を運ぶことができるかについて考えています。

はやて
式は350 × 16です。筆算をしようかな。

あやの
筆算をしなくても、350 × 16の答えを求めることができます。2台のときの米の重さをもとにすれば、16台のときの米の重さがわかります。

そこで、あやのさんたちは、下の図のように、350 × 2 = 700であることをもとに、350 × 16の積の求め方についてまとめました。
このとき、350 × 16のかける数「16」が、350 × 2のかける数「2」の何倍になっているかに着目しました。

上の図の⑦に入る数に着目すると、350 × 16の積⑧は、どのように求めることができますか。
⑦に入る数に着目したときの④の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、⑦に入る数をどのように求めたのかがわかるようにしましょう。
また、④に入る数も書きましょう。

読みにくいので、必要な部分を抜き出してみます。

- はやて 式は350 × 16です。筆算をしようかな。
- あやの 筆算をしなくても、350 × 16の答えを求めることができます。2台のときの米の重さをもとにすれば、16台のときの米の重さがわかります。

そこで、あやのさんたちは、下の図のように、350 × 2 = 700であることをもとに、350 × 16の積の求め方についてまとめました。
このとき、350 × 16のかける数「16」が、350 × 2のかける数「2」の何倍になっているかに着目しました。

上の図の⑦に入る数に着目すると、350 × 16の積⑧は、どのように求めることができますか。
⑦に入る数に着目したときの④の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、⑦に入る数をどのように求めたのかがわかるようにしましょう。
また、④に入る数も書きましょう。

ここで、先般実施した小学校の昨年度調査問題結果を以下に示しておきます。

		解答類型																	正答率合計 (1+7)
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	99	0	
令和6年度	児童数	96	4	20	7	7	0	54	23	6	4	2	0	3	22	11	67	25	351
	割合 (%)	27.4	1.1	5.7	2	2	0	15.4	6.6	1.7	1.1	0.6	0	0.9	6.3	3.1	19.1	7.1	42.8
令和5年度 本校	割合 (%)	31.2	2.1	0.8	4.1	2.8	0.3	14.4	5.9	0	0	0.5	0	0	17.5	2.3	13.4	4.6	45.6
令和5年度 県	割合 (%)	34.9	1.8	0.5	2.5	2.9	0.2	13.8	5.1	0.3	0.5	0.8	0.3	0.2	19.4	1.6	11.9	3.5	48.7
令和5年度 全国	割合 (%)	37.6	1.8	0.7	2.2	2.5	0.1	17.9	6.3	0.4	0.6	0.8	0.3	0.1	13.4	1.6	10.3	3.4	55.5

上の表を簡潔にしたのが右の表です。結果は、

- △ 平均正答率の令和5年度浜田市比較
42.8 - 45.6 = -2.8
- △ 平均正答率の令和5年度島根県比較
42.8 - 48.7 = -5.9
※昨年度の浜田市と県との差は、-3.1
- 答えを84と回答の令和5年度浜田市比較
56.7 - 52.0 = +4.7
- 答えを84と回答の令和5年度島根県比較
56.7 - 55.0 = +1.7 (昨年度の市と県の差は-3.0)

【6年R5算数調査】集計結果			
類型①③⑤⑦ ⑨⑪⑬⑮			
学校名	正答率	県との差	※84と解答
全体	42.8	-5.9	56.7
R5浜田市	45.6	-3.1	52.0
R5島根県	48.7		55.0
R5全国	55.5		61.6

昨年度の結果と単純に比較ができないことについては、学年集団が違うこと以外に次の点にも課題があったと考えています。

- ① 調査問題は、昨年度の大問1(3)に該当するが、昨年度の児童は大問(1)(2)を解く際に、表に示してある数値を活用しながら問題を解いていた。正解の有無にかかわらず、表にして数値の関係(縦、横)を捉えていけば解決できるとの見通しをもつことができるような構成になっていた。
本年度においては、いきなり大問1(3)の問題のみが示されており、昨年度の児童よりも解決への見通しが持ちにくかったと思われる。
- ② 採点をする際に、文部科学省では採点の許容範囲等について採点者への共通理解を図っていたはずである。しかしながら、本年度調査においては解答類型のみが示され、許容範囲等の共通理解が図られないままでの採点となったため、採点者によって採点基準が異なっていた可能性が大きい。
- ③ 県教育委員会からは、「実施日や時間については、各市町村教育委員会または各学校で設定する」との指示であり、実施時間において市町村によって違いが出ている可能性が大きい。(浜田市は約5分と設定)

上記の課題はあったものの、調査結果比較からは、次のことが見えてきます。

△ 昨年度の浜田市及び島根県と比較すると、平均正答率の差は広がっている。
○ 昨年度の浜田市及び島根県と比較すると、84と回答した割合は増えている。
※ <u>昨年度と比較して、答えを求めることはできるようになっている。しかし、その根拠を説明することについては依然課題である。</u>

資料A「算数科における指導の充実・改善(初等教育資料)」では、全国学力・学習状況調査の設問を例にしながら説明をすること、つまり、知識及び技能だけでなく、深い理解を促したり、思考力、判断力、表現力等を育成したりするために授業改善することの必要性が述べられています。

また、このことについては、昨年度の算数問題についての学力向上推進室としての捉えとして、1単位時間において繰り返し説明することが必要であることを示しています。今回の調査で、繰り返し説明をしていくことに向かった授業改善の必要性が明らかになっています。6年生だけの課題ではありません。低学年段階から1単位時間の中で繰り返し説明することを積み重ねていく必要があるからです。研修を実施し、算数・数学の授業改善を進めていく必要があります。時間があれば、昨年度の問題を例にどのように繰り返し説明をする授業を実施していくのかを個々に考え情報共有をしたり、自己が担当する学年で考えてみたりする等の取組も有効であると考えます。

2 浜田市図書館を使った「調べる学習コンクール」について・・・・・・・・・・資料B

このコンクールの目的（子どもたちに対するもの）は、

- 学校図書館・公立図書館の資料やインターネットなどの様々な情報の活用や体験活動を行う「調べる学習」を通じて、子ども達が自ら考え、判断し、表現する力を育み、「学ぶ楽しさ」や「知る喜び」を実感する機会を創出する
- 上記の取組の中で、各学校図書館、公立図書館での調べ方を体得しながら、課題を解決する力を養うことです。

積極的な参加をお願いします。学校司書は、調べる学習についても研修を行っていますので、連携しながら取り組んでください。

学習指導要領では、学習の基盤となる資質・能力として「言語能力」「情報活用能力」「問題発見・解決能力」を挙げています。調べる学習についての取組も含みますが、図書館活用教育は、これらの資質・能力を育成する上で有効な取組になると考えています。

また、浜田市の子どもたちの課題である「限られた時間で、多くの情報の中から課題解決に必要な情報を収集して考え、根拠を明確にして筋道を立てて表現（文章、式、図、言葉など）する力」に迫るための取組ともなると考えています。

各学校における図書館活用教育の推進をお願いします。

なお、調べる学習研修会は、6月20日（木）15：00から、中央図書館において開催します。

3 指定校授業公開日予定について

- 読解力育成（原井小学校） 10月2日（水）3年国語、11月22日（金）5年国語
- 図書館活用教育（松原小学校） 10月8日（火）1年国語、11月21日（木）4年社会
（第二中学校） 9月18日（水）1年国語、2回目は調整中
- ICT活用授業改善（石見小学校） 10月17日（木）3年社会、12月4日（水）5年社会
- 算数・数学科授業改善（周布小学校） 10月18日（金）4年算数、11月8日（金）2年算数
（長浜小学校） 6月27日（木）6年算数、10月11日（金）1年算数
（第三中学校） 12月9日（月）3年数学、2月10日（月）2年数学
- 協調学習（雲城小学校） 6月28日（金）3年図工、10月9日（水）3年算数
（旭中学校） 5月28日（火）3年国語、9月9日（月）3年理科

浜田市教員は、年1回は各指定校の公開授業及び研究協議に参加することとしています。浜田市教育研究会の教科領域部会の研修会としての公開授業及び研究協議への参加ともしたいと考えています。今後、このことについて、各指定校の担当から教科領域部会の部長へ連携依頼の連絡をします。併せて、指定校公開授業・研究協議への教員の参加について、働きかけをお願いします。

なお、後日、各指定校の公開授業実施日及び教科等を一覧表にしてお知らせをし、参加を願う依頼文書を各学校へ送付する予定にしています。

学力向上推進室だより No97 ～算数・数学～

浜田
学力向上推進室
2024.5.1 担当：青木

授業改善～「椅子の問題」を切り口に～

4月18日は全国学力・学習状況調査の実施、大変お世話になりました。また、児童生徒質問調査はオンラインでの実施ということでご負担をお掛けしましたが、対応いただきありがとうございました。

本調査に先立って、県教委から依頼があった関係で、小学校6年生を対象に令和5年度全国学力・学習状況調査 小学校算数より「椅子の問題」を取りあげて実施しました。急なお願いにも関わらず、実施及び採点等にご協力いただき、誠にありがとうございました。

実施した問題と、浜田市全体の結果です。(類型ごとの詳細は裏面に記載しています。)

いす4きゃくの重さをはかると、7kgでした。
このいす48きゃくの重さは、何kgですか。
求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、
答えも書きましょう。



	正答率	R5県との差	※84と解答	R5県との差
R6浜田市	42.8	-5.9	56.7	1.7
R5浜田市	45.6	-3.1	52.0	-3.0
R5県	48.7		55.0	
R5全国	55.5		61.6	

昨年度の結果と比較すると、椅子48脚の重さである「84kg」を正しく求められた児童(表の右側)は56.7%と、昨年度の浜田市より4.7ポイント、同島根県より1.7ポイント高い値でした。問題から必要な情報を読み取って答えを求めることができている児童の割合は増加しています。昨年度からの先生方の授業改善の成果だと思います。

一方で、(採点者による微妙な基準の差異があることは想定されますが)式や言葉を使って求め方まで正しく書けた児童は42.8%。昨年度の県の平均を下回っています。

この1問の結果を切り口に、浜田市の児童生徒の実態として、「答えを求めることができるようになってきている一方で、その根拠を説明することには課題がある」と言えるのではないのでしょうか。このことは、「子どもの声でつくる授業」の中でもあげている浜田市児童生徒の課題「限られた時間で、多くの情報の中から課題解決に必要な情報を収集して考え、根拠を明確にして筋道を立てて表現(文章、式、図、音声言語など)する力」とも重なります。

では、どのようにこの状況の改善を図っていくか。

「答えは求められるが、根拠の説明が不十分」ということは、「根拠となる部分をどう表現したらいいかわからない」「きちんと説明したつもりが不十分」という子どもが一定数(この問題であれば約14%)いるということです。誤った答えを出した子どもも含めると、もっと割合は大きくなるでしょう。

この問題の無解答率が約7%。多くの子どもたちは何かしら問題に取り組む(考えを表現する)ことができている。そうであるならば、その表現を練り上げる(改善する)機会が大切だと考えます。

この椅子の問題であれば、

- いす60きゃくの重さは何kgだろう？
- もし、いす3きゃく(或いは5きゃく)で7kgだったら、48きゃくの重さは何kgになるだろう？
- いすを収納する棚は100kgまで耐えられるけど、この棚にいすを70きゃく収納しても大丈夫かな？

といった問いを立てながら繰り返し表現していくことで、「もっとここをこうすると良い表現になる」「自分の表現にはこの部分が足りないから、次は意識しよう」と、表現を洗練させる機会になるのではないのでしょうか。また、最初は全く書けなかった子どもたちも、一度表現のサンプルに触れることで、2回目以降への見通しとなり、自分の考えが表現できるようになっていくかもしれません。

「椅子の問題」は小学校6年生の問題ですが、小・中いずれの学年においても、説明する力の育成は必要です。小学校低学年であれば、説明というよりも、自分の考えの表現という段階だと思いますが、繰り返し取り組んでいく中で、表現が洗練されていくのではないのでしょうか。そうした日々の積み上げが、

「根拠を明確にして筋道を立てて表現する力」となっていきます。また、算数・数学だけでなく、どの教科でも考えや表現を練り上げていく場面はつくり出すことができるのではないのでしょうか。

浜田市の児童生徒のために毎日奮闘しておられる先生方にとって、日々の授業改善の一助になれば幸いです。

～「椅子の問題」正答の条件と結果の詳細～

(正答の条件)
 次のA又はBのいずれかで、それぞれA①、A②の全て又はB①、B②の全てを書き、答えを84と書いている。
 A 48脚が4脚の12倍であることなどを求め、椅子の数が12倍になると重さも12倍になることなどを用いて、48脚のときの重さを求めている。
 A① 48脚が4脚の12倍であることなどを求める式や言葉
 A② 椅子の数が12倍になると重さも12倍になることなどを用いて、48脚のときの重さを求める式や言葉
 B 1脚当たりの重さを求め、1脚当たりの重さを用いて、48脚のときの重さを求めている。
 B① 1脚当たりの重さを求める式や言葉
 B② 1脚当たりの重さを用いて、48脚のときの重さを求める式や言葉

(正答例)
 ・A
 【求め方】 いすの数は、 $48 \div 4 = 12$ で、12倍になります。いすの数が12倍になると重さも12倍になるので、48きやくのときの重さは、 $7 \times 12 = 84$ で、84kgです。
 【答え】 84 (kg) (解答類型1)
 ・B
 【求め方】 1きやくあたりの重さは、 $7 \div 4 = 1.75$ で、1.75kgになります。48きやくのときの重さは、 $1.75 \times 48 = 84$ で、84kgです。
 【答え】 84 (kg) (解答類型7)

	R6 浜田市		R5 浜田市	R5 県	R5 全国	求め方	答え		
	児童数	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)	割合 (%)				
正答	1	96	27.4	31.2	34.9	37.6	A①,A②を記述	84	
	2	4	1.1	2.1	1.8	1.8		84以外	
	3	20	5.7	0.8	0.5	0.7	A①のみ記述	84	
	4	7	2	4.1	2.5	2.2		84以外	
	5	7	2	2.8	2.9	2.5	A②のみ記述	84	
	6	0	0	0.3	0.2	0.1		84以外	
	正答	7	54	15.4	14.4	13.8	17.9	B①,B②を記述	84
		8	23	6.6	5.9	5.1	6.3		84以外
		9	6	1.7	0	0.3	0.4	B①のみ記述	84
		10	4	1.1	0	0.5	0.6		84以外
		11	2	0.6	0.5	0.8	0.8	B②のみ記述	84
		12	0	0	0	0.3	0.3		84以外
		13	3	0.9	0	0.2	0.1	$7 \times 4 \times 8$ を記述	84
		14	22	6.3	17.5	19.4	13.4		84以外
15	11	3.1	2.3	1.6	1.6	類型1～14以外,無解答	84		
99	67	19.1	13.4	11.9	10.3		84以外		
0	25	7.1	4.6	3.5	3.4	無解答	無解答		
正答率合計 (1+7)		42.8	45.6	48.7	55.5				
84と解答		56.7	52.0	55.0	61.6				

算数科における指導の充実・改善

浜田市教育委員会 学力向上推進室

令和6年度4月の校長会において、昨年度の全国学力・学習状況調査で出題された問題を6年生に解かせて解答類型について提出することの意義について説明をさせていただきました。改めて、昨年度の校長会で示した、この問題の平均正答率が低いことについての学力向上推進室としての捉えについて、資料の一部を紹介しておきます。

- ◎ 主体的・対話的な授業を目指した取組が行われているが、このために導入に多くの時間を費やしたり、個人思考や集団思考に時間を費やしたりした結果、1単位時間で扱う問題が1問のみという授業も多く見られていることが課題だと思っている。
- この問題を解くにあたって、椅子の数と重さの関係について、表にして関係を捉えれば解決できるとの見通しをもつことができることが大切である。
- この見通しにより、横の関係を基に5年生での比例の関係を踏まえて解決する。また、縦の関係から1脚当たりの重さを求めれば48脚の重さについて解決できることを踏まえて解決することになる。
- このような見通しをもつことができなかつたのは、**1単位時間に多くの問題に触れることが不十分であったことが原因の一つ**であると考えている。また、正しい答えを導きながらも求め方について説明ができていない児童もいる。これについても、**多くの問題を解きながら変化の規則性を基に説明をする活動が不十分**であったからだと考えている。

最後に示している部分の、「**多くの問題を解きながら変化の規則性を基に説明をする活動が不十分**」に関連する記述が初等教育資料 令和6年4月号に掲載されています。全国学力・学習状況調査で出題された問題を活用しながら説明がなされています。

学力向上推進室が昨年度に示した捉えに関連する部分を抜粋（P2以降の二重下線がしてある部分から）します。

- 「これらの図形はなぜ台形なのですか」との教師の問いにある子が答えた後の活動として「向かい合った一組の辺が平行であること」という友達の説明が全ての子供にとって簡潔で分かりやすいものであるならば、繰り返させることで、このような説明を自分でも言えるようになると考えられる。【P2】
- 友達が説明したことが理解できたかどうか判断するには、その説明を基に似た問題について、自分でも同じように説明できるかどうか確認するのが一番よい。【P3】
- 先の説明では「6cmずつ増えているので」と冒頭に説明しているが、表の中には6cmは直接示されていないので、6cmはどの部分を表しているのかについて説明することが必要なのである。【P3】
- 教室で子供が説明するのは、分からない子供に対してでもある。発表する子供にも、自分の説明が正しいかどうかを問うという意味だけでなく、分からない子供に伝えるためという目的意識を、子供がもつことができるようにすることが大切である。【P4】
- 算数が得意な子供たちの後ろにいるであろう、算数が苦手な子供たちに目を向けて、算数が得意な子供の力や協働的な学びの力を借りながら、算数が苦手なままにしておかないようにすることが、一人一人の子供の将来を広げることにつながると考える。【P4】

以下、初等教育資料 令和6年4月号【算数科における指導の充実・改善 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 笠井健一】の関係する部分について紹介します。

算数科における指導の充実・改善

1 答えが合っているかどうか確認するだけでなく、なぜその答えになるのかの理由を多くの子供が言えるようにする－台形の問題を用いて

台形の問題を用いて授業をしたときのことを考える。

「これら4つの図形は何ですか。」と問えば、「台形です。」「そうです。同じです。」と教室の8割以上の子供たちはこのように答えるだろう。

このとき教師が、令和5年度小学校算数の報告書に示した解答類型にあるように、平行四辺形だと思っている子供たちが3.4%いることを含め、台形と思っていない子供たちがいることに思いをはせることができたなら、「どうして台形なのですか」と問うことは必然となる。

これらの図形が台形だと分からない子供たちに、分かりやすく説明しなければ、この子供たちは次回も台形と選ぶことができないからである。

なぜ台形かと説明を求めると、子供たちの答えようとする勢いは一気に落ちる。台形と答えることには積極的であった子供たちだが、その理由を説明することは苦手だからだ。そこで算数の得意な子供が答える。「どれも、向かい合った一組の辺が平行だからです。」「同じです。」

この「同じです」という意味は先ほどの意味と異なる。先ほどは「台形です」と同じことが言えるという意味で「同じです」と答えているが、今回は「同じ意味です」という意味で答えている。「自分も同じように説明できます」という意味ではない。

そこで教師は次のように述べるのが大切となる。「このクラスみんなが、それぞれ同じように説明できるようになってほしいと思います。これらの図形はなぜ台形なのですか、と隣の友達に聞いてみて下さい。聞かれた友達は、今の説明と同じ言葉でよいので、真似して説明してみましよう。」

説明することに慣れていない子供たちが多いクラスでは、教師がこのように問い掛けることが重要である。このように問いを出し合い、友達の説明を真似して説明し合うペア活動を取り入れることで、子供たちに説明する経験を積ませ、説明することへの抵抗感をなくすことが必要である。

「向かい合った一組の辺が平行であること」という友達の説明が全ての子供にとって簡潔で分かりやすいものであるならば、繰り返させることで、このような説明を自分でも言えるようになると考えられる。

2 友達の説明を聞いたら、数量を変えた場面で同じように説明できるか確認できるようにする－カップケーキの問題を用いて

カップケーキの問題を用いて、別の授業改善のポイントを説明する。

問題場面は、「14個入りのAセットと21個入りのBセットでは、同じ個数に揃えたときどちらが安くなるか」について考える場面である。

本設問では、カップケーキの個数を7個にそろえた場面で考察した「くるみさんの考え」が発表されたとき、あいりさんが「Aセットのカップケーキが7個の場合、 $1050 \div 2$ で求められることができるのはなぜか」を質問している。

算数の授業でも、個人で解決した後、クラス全体に向かって自分の考えを説明することはよくある。この問題の場合、聞いている子供が分からなかったことを素直に質問しているが、質問することにまだまだ抵抗感がある学級の場合、教師が代わりに質問することも考えられる。

本設問では、あいりさんの疑問に、ゆうとさんが詳しく説明し、今度は「Bセットについて、 $1470 \div 3$ の式で求められることを説明すること」を問うている。

「友達の説明が理解できた」とは、「その説明を自分ができるようになることである」ことはよく知られている。つまり、友達が説明したことが理解できたかどうか判断するには、その説明を基に似た問題について、自分でも同じように説明できるかどうか確認するのが一番よい。そこでこのような設問が示されたと考えられる。

3 分からない子供が分かる説明をする－椅子の問題を用いて

令和5年度全国学力・学習状況調査の小学校算数の大問1(1)の問題（以降「椅子の問題1」という）(資料3)の正答率は93.5%である。「5脚のときの椅子の高さは何cmですか」と問えば、このときも多くの子供は「69cm」と答えるであろう。先ほどと同じように、残り7%の子供はこの答えにたどり着いていないことに思いをはせることができれば、「なぜ69cmになるのですか」とクラス全体に問うだろう。そしてこのときも説明するとなると、多くの子供たちの答えようとする勢いは一気に落ちるだろう。そして算数の得意な子が発表する。

ここで子どもがする説明に次のようなものがある。「6cmずつ増えているので、63cmに6cmを足して69cmになります。」

69cmになる理由として端的に正しく説明しているし、間違っていない。けれど、私は講演でこの問題について話すとき、次のように聞く。「先生方のクラスの子供たちの中で、算数が苦手な子供たちは、この説明で理解できるでしょうか。」

すると多くの教師は、この説明では算数が苦手な子供たちは理解できないと言う。そこで「どのように説明したらよいか」と続けて聞く。

すると先生方は、問題に示された表の一部を指差し、矢印や数を書き加えながら説明を始める。(図3)「椅子の数が1脚から2脚になると高さは、45cmから51cmに6cm高くなります。また、2脚から3脚のときの高さも51cmから57cmにと高くなります。3脚から4脚のときも同じように6cm高くなるので、5脚の時は、63cmから6cm高くなって69cmになります。

このように、問題に示された表に書き込みながら6という数字が出てきた根拠を詳しく説明することで、教室にいる算数が苦手な子供は理解できるのではないだろうか。

すなわち先の説明では「6cmずつ増えているので」と冒頭に説明しているが、表の中には6cmは直接示されていないので、6cmはどの部分を表しているのかについて説明することが必要なのである。

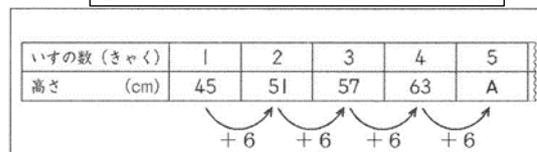
教師は子供たちに「問題文に出ていない数は説明することが必要です」と話すことがあるだろう。これは、ルールとしてそうするというより、算数が苦手な子供でも分かるようにするための説明として必要なことだから行うのである。

子供の実態によっては、表に書き込むだけだと分からない場合がある。そのときは、表ではなく、重ねた椅子の絵に高さが6cmずつ増えていることを書き込みながら説明することになるだろう。

資料3 令和5年度 小学校算数 大問1(1)



図3 表に書き加えながら説明する



教室で子供が説明するのは、分からない子供に対してでもある。分からない子供が本当に分かるようになることが大切である。このように考える教師は、ある子供が説明のために発表しているとき、聞いている子供の表情を見るなどして、特に算数が苦手な子供にその説明が届いているかどうか確認することを大切にしているのである。発表する子供にも、自分の説明が正しいかどうかを問うという意味だけでなく、分からない子供に伝えるためという目的意識を、子供がもつことができるようにすることが大切である。

続く大問1(2)(資料4)では、この表を見て、「高さは椅子の数に比例しているのか」について、ゆうなさんが次のように説明している。「椅子の数が2倍になっても、高さが2倍になっていないので、高さは椅子の数に比例していません。」

この説明も正しい説明である。けれども先と同じように「2倍になっている」ところや「2倍になっていない」ところはどこかは、この説明では不明である。そこで問題として、表の中の数値を使って説明することを求めているのである。正答率は88.6%であった。

自分が理解するための説明と、分からない子供にも分かるような説明が、時として異なることを、学級の子供たちが理解していることが大切である。

資料4 令和5年度 小学校算数 大問1(2)

いすの数(きやく)	1	2	3	4	5
高さ (cm)	45	51	57	63	A

はるまさんたちは、いすの数と高さの関係について考えています。

高さはいすの数に比例しているでしょうか。

いすの数が2倍になっても、高さは2倍になっていないので、高さはいすの数に比例していません。

「いすの数が2倍になっても、高さは2倍になっていない」ことを、表の中の数値を使うと、次のように説明することができます。

いすの数が きやくから きやくと2倍になっても、高さは cm から cm で2倍になっていません。

上の②、③、④にあてはまる数を、表の中の数から1つずつ選んで書きましょう。

4 二通りの解法それぞれに意味がある問題では、それぞれの解法で解決できるようにする

続く大問1(3)(資料5)の問題の正答率は55.8%である。椅子の重さは椅子の数に比例していることを基に48脚の重さを求める問題である。解法は二通りある。48脚が4脚の12倍であることを基に考える方法と、1脚当たりの重さ1.75kgを基に考える方法である。この問題は、どちらで解答しても難しさに余り違いはない。けれども、「3脚の重さが7kg」だったり、「48脚ではなく47脚」だったり、問題の数値が変わると、難しさは変わってくる。小数では割り切れず分数を用いないと計算できない場合があるからだ。

ある解法で問題が解けても別の方法はないかと考えたり、その解法が適用できる問題の範囲を考えたりすることは、統合的・発展的に考察する力を育成することに資すると考えられる。

おわりに

本稿は、全国学力・学習状況調査の分析をもとに指導の充実・改善について述べてきた。知識及び技能だけでなく、深い理解を促したり、思考力、判断力、表現力等を育成したりするために、授業を改善することを中心に述べた。

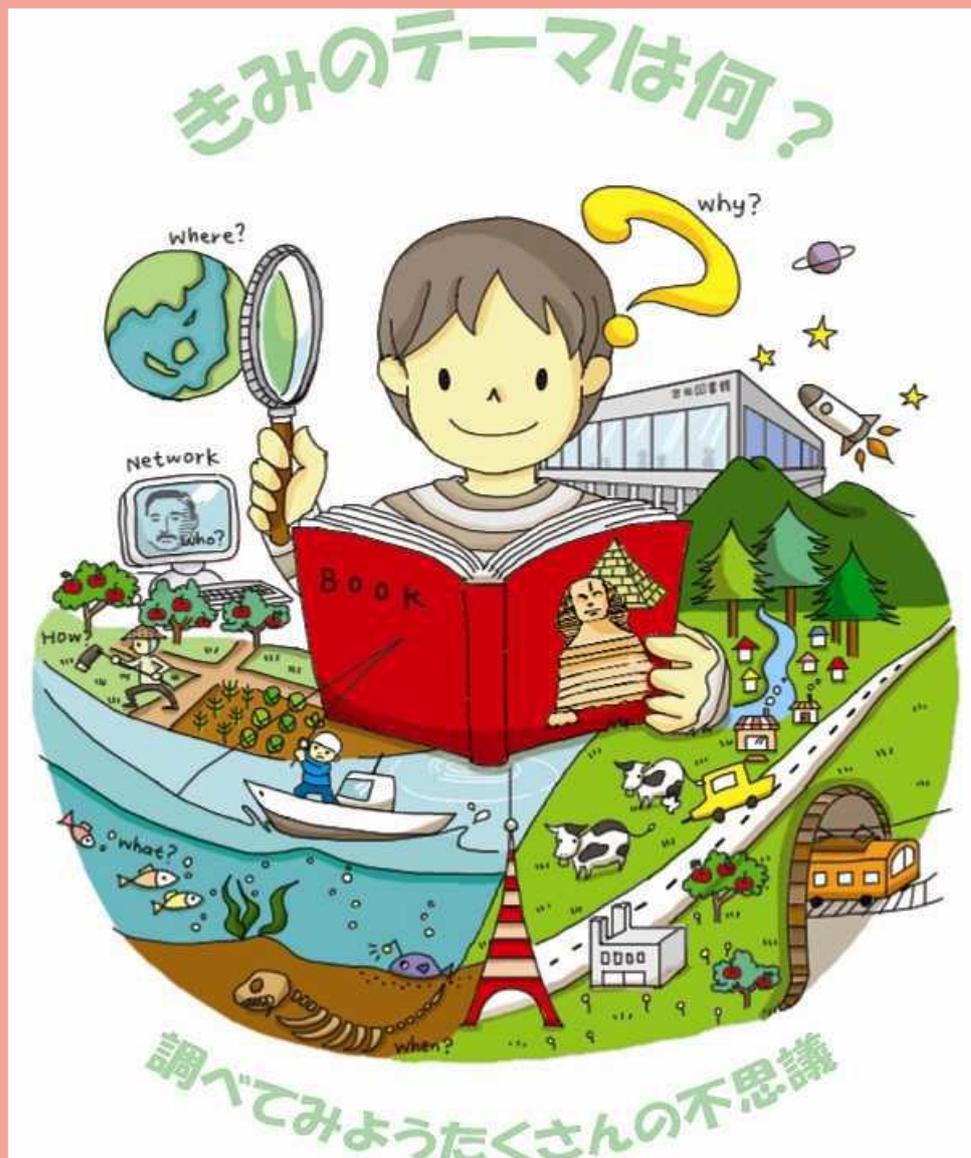
算数が得意な子供たちの後ろにいるであろう、算数が苦手な子供たちに目を向けて、算数が得意な子供の力や協働的な学びの力を借りながら、算数が苦手なままにしておかないようにすることが、一人一人の子供の将来を広げることにつながると考えるからである。誰一人取り残さないように丁寧な指導をしてほしい。

資料4 令和5年度 小学校算数 大問1(3)

(3) いす4きやくの重さをはかると、7kgでした。このいす48きやくの重さは、何kgですか。求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。



第11回 浜田市図書館を使った 調べる学習コンクール



作品の形態

小学生 B4 サイズまで、中学生 A4 サイズまでの用紙に 50 ページ以内でまとめてください

模造紙の場合は、上記サイズに折りたたんで応募してください

★必ず書くこと

調べたときに利用した資料名(本の題名)を書いてください

応募対象

浜田市内の小・中学生

応募方法

応募カードを作品裏右上に添付して、ご自分の通う学校へ提出してください

コンクールに関するお問合せ先

浜田市立中央図書館

「図書館を使った調べる学習
コンクール」係

〒697-0024

浜田市黒川町 3748-1

電話 (0855)22-0480

F a x (0855)22-0592

または

浜田市教育委員会

〒697-8501

浜田市殿町 1 番地

電話 (0855)22-2626

F a x (0855)22-5090

募集期間

令和6年 10月 4日(金)
～10月 10日(木)

主催 浜田市教育委員会

後援 公益財団法人 図書館振

浜田市のコンクールで優れた作品は、公益財団法人図書館振興財団が主催する全国コンクールの三次審査に推薦します。

令和 7 年度全国高等学校総合体育大会浜田市実行委員会の設立について

高校生最大のスポーツの祭典である全国高等学校総合体育大会が令和 7 年度に中国 5 県で開催されることになり、浜田市では平成 28 年度の開催に続いて「男女体操競技」を開催することが決定しております。

そこで、浜田市では多くの関係者の皆様のご協力を得ながら「令和 7 年度全国高等学校総合体育大会浜田市実行委員会」を下記のとおり設立し、大会の準備・運営を行ってまいります。

記

1 設立総会及び第 1 回総会

(1) 日 時 令和 6 年 6 月 3 日 (月) 15:00~16:00

(2) 会 場 浜田市立中央図書館 多目的ホール

(3) 総会次第及び議題

① 設立総会

- ・全国高等学校総合体育大会の概要と浜田市準備経過の報告
- ・浜田市実行委員会 設立 (案)、会則 (案)、役員 (案) 及び委員選任 (案)

② 第 1 回総会

- ・令和 7 年度全国高校総体 浜田市開催基本方針 (案)
- ・浜田市実行委員会 令和 6 年度事業計画 (案) 及び収支予算 (案)

2 役員体制 (案)

役職	所属団体・役職名	氏名
会 長	浜田市長	久保田 章市
副会長	浜田市議会 議長	笹 田 卓
副会長	浜田市体育協会 会長	山 崎 晃
副会長	島根県高等学校体育連盟体操専門部 部長	志波 英樹
副会長	浜田市体操連盟 会長	福 田 政隆
副会長	浜田市教育委員会 教育長	岡 田 泰宏

※他に、委員 15 名 (内、監事 2 名) : 宿泊交通関係、商工観光関係、競技団体外

顧問 5 名 : 県議会議員、県高体連、県体育協会

参与 14 名 : 市教育委員会教育委員、報道機関

3 令和 7 年度 体操競技日程 (男女)

会場	会場名	7/30 (水)	7/31 (木)	8/1 (金)	8/2 (土)	8/3 (日)	8/4 (月)	8/5 (火)
競技会場	島根県立体育館 (竹本正男アリーナ)	※	※	○	○△	●	●	●△
サブ会場	島根県立浜田高等学校	※	※	○	○	○	○	○
練習会場	浜田市金城総合体育館	※	※	○	○	○	○	-

※印 : 器具設置、○印 : 公式練習、●印 : 競技、△印 : 開会式・閉会式

事 務 連 絡
令 和 6 年 5 月 28 日

浜田市教育委員会教育委員 各位

浜田市長 久保田 章市
(高校総体・国スポ・全スポ推進室)
(公 印 省 略)

令和7年度全国高等学校総合体育大会浜田市実行委員会参与委嘱について（依頼）

新緑の候、すがすがしい好季節の折から、ますますご隆昌のこととお喜び申し上げます。

平素は浜田市行政につきまして、格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、このたび高校生最大のスポーツの祭典である全国高等学校総合体育大会が、令和7年度に中国5県で開催されることになり、浜田市では体操競技を開催することに決定しております。

令和6年6月3日に、「令和7年度全国高等学校総合体育大会浜田市実行委員会」を立ち上げ、開催に向けて進めてまいりたいと考えております。

つきましては、下記のとおり、実行委員会の参与として委嘱させていただく予定としておりますので、ご承知おきください。

また、実行委員会立ち上げ後に、委嘱状をお渡しさせていただきます。

総会等に参加いただく必要はございませんが、会議資料等の共有をさせていただきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

記

- 1 期 日 令和6年6月3日から大会終了後の実行委員会総会まで
- 2 役員名 参与

以上

高校総体・国スポ・全スポ推進室 電話 0855-25-6302 Fax0855-22-5758 担当 田倉、山上、大内田

令和6年5月28日 教育委員会定例会資料 文化振興課

令和6年度浜田市スクールコンサート
『ハイブリッドウィンドオーケストラメンバーによるスペシャルスクールコンサート
♪管楽器の魅力♪』 の開催について

このことについて、浜田市教育研究会音楽部会事業として令和6年度浜田市スクールコンサートが開催されますので報告します。

つきましては、鑑賞につきましてご都合がつく日程がございましたら文化振興課担当者までご連絡いただきますようお願いいたします。該当校へは文化振興課から事前連絡させていただきます。

記

1. 目的 小中学生に優れた芸術鑑賞の機会を提供することにより、豊かな人間形成に寄与する
2. 日程・場所

開催日		時間	学校名	児童・生徒数	会場
6月3日	月	10:15～11:15	第三中学校	292名	第三中学校
6月5日	水	10:30～11:30	長浜小学校	124名 (4・5・6年生)	長浜小学校
6月6日	木	10:30～11:30	周布小学校	247名	周布小学校
6月7日	金	10:30～11:30	今福小学校	33名	今福小学校
6月10日	月	10:30～11:30	波佐小学校	11名	波佐小学校
6月11日	火	10:20～11:20	雲城小学校	135名	雲城小学校
6月12日	水	10:20～11:20	美川小学校	62名	美川小学校
6月18日	火	10:00～11:00	金城中学校	89名	ふれあいジム かなぎ

3. 主催 浜田市教育研究会音楽部会
※浜田市の補助事業により実施し、演奏は一般社団法人石見音楽文化振興会に委託

【裏面へ続く】

4. 演 奏 者 ハイブリッドウィンドオーケストラメンバー (5名)

第三 中学校	清水 佑一 【トランペット】	宮邊 マリア 【トランペット】	西岡 広基 【フリューゲルホルン】	谷寄 夏帆 【トロンボーン】	鈴木 陽介 【テューバ】
長浜 小学校	清水 佑一 【トランペット】	宮邊 マリア 【トランペット】	川北 朋 【ユーフォニアム】	谷寄 夏帆 【トロンボーン】	鈴木 陽介 【テューバ】
周布 小学校	宮邊 マリア 【トランペット】	青野 花菜 【トランペット】	川北 朋 【ユーフォニアム】	谷寄 夏帆 【トロンボーン】	鈴木 陽介 【テューバ】
今福 小学校	黒瀬 彩夏 【フルート】	土谷 奈々 【フルート】	安川 遥 【クラリネット】	引野 結菜 【サクソフォン】	梅本 舜也 【サクソフォン】
波佐 小学校	黒瀬 彩夏 【フルート】	土谷 奈々 【フルート】	安川 遥 【クラリネット】	引野 結菜 【サクソフォン】	梅本 舜也 【サクソフォン】
雲城 小学校	清水 佑一 【トランペット】	青野 花菜 【トランペット】	川北 朋 【ユーフォニアム】	谷寄 夏帆 【トロンボーン】	鈴木 陽介 【テューバ】
美川 小学校	土谷 奈々 【フルート】	鎌田 伎恭 【オーボエ】	安川 遥 【クラリネット】	引野 結菜 【サクソフォン】	梅本 舜也 【サクソフォン】
金城 中学校	土谷 奈々 【フルート】	鎌田 伎恭 【オーボエ】	安川 遥 【クラリネット】	引野 結菜 【サクソフォン】	梅本 舜也 【サクソフォン】

5. 内 容 管楽器の魅力を紹介するプログラム。

6. そ の 他 本公演は令和6度から3年かけて浜田市内の全小中学校を訪問して
公演するもので、今回が初年度となります。

【担 当】

浜田市教育委員会 文化振興課
芸術文化振興係 佐々木、桑垣
TEL 0855-25-9730 / FAX 0855-23-5758
Mail bunka@city.hamada.lg.jp

石見神楽の保存・伝承に向けた検討について

石見神楽、神楽団体、神楽関連産業等の保存・伝承に向けて、石見神楽伝承内容検討専門委員会（以下「専門委員会」という。）を立ち上げ、行政と民間がそれぞれどのような取組を進めるべきかや、行政が行うべき情報発信の内容や方法等について検討し、これらを取りまとめ、市に対して提言書として提出していただく予定です。

市は、専門委員会からの提言内容を具現化するための仕組みや方法等を検討し、公表する予定です。

1 専門委員会メンバー

No.	選出区分	団体・役職等	氏名
1	学識経験者	公立大学法人島根県立大学 准教授	豊田 知世
2	学識経験者	松江市文化財課歴史史料専門調査員 浜田市文化財審議会委員	浅沼 政誌
3	学識経験者	石見銀山資料館 館長 浜田市文化財審議会委員	仲野 義文
4	神楽団体	浜田石見神楽社中連絡協議会	小川 徹
5	神楽団体	金城町石見神楽社中連絡協議会 会長	山本 泰介
6	神楽団体	旭町石見神楽保存会 会長	大賀 俊輔
7	神楽団体	弥栄町石見神楽社中連絡協議会	梅津 里美
8	神楽団体	三隅町石見神楽社中協議会 会長	丸山 洋司
9	子ども神楽関係団体	どんちっちサポート IWAMI 副会長	川神 丈尚
10	神楽産業	植田蛇胴製作所 代表	植田 倫吉
11	神楽産業	柿田勝郎面工房 代表	柿田 兼志
12	神楽産業	細川衣裳店	小林 龍希
13	情報発信関係	石見ケーブルビジョン株式会社 代表取締役社長	福浜 秀利
14	教育関係	浜田市校長会（弥栄小学校 校長）	真島 陽一

2 専門委員会のスケジュール及び検討内容（案）

回	開催日時・場所	内容（案）
第1回	5月24日(金) 18:30~20:30(予定) 中央図書館	・会長・副会長の選任 ・石見神楽の保存・伝承に向けて必要な取組に関する意見交換
第2回	6月27日(木) 18:30~20:30(予定) 中央図書館	
第3回	7月30日(火) 18:30~20:30(予定) 中央図書館	・第1回の意見交換の内容を踏まえ、石見神楽の保存・伝承に向けて、行政と民間がそれぞれ行うべき取組や行政が行うべき情報発信の内容や方法等について検討を行い、取りまとめる。
第4回	8月27日(火) 18:30~20:30(予定) 中央図書館	
第5回	9月26日(木) 18:30~20:30(予定) 中央図書館	・第1回~第4回で取りまとめた内容について提言書に盛り込む内容の検討を行う。
第6回	10月30日(水) 18:30~20:30(予定) 中央図書館	・提言書の最終調整 ・市長・教育長に対して提言書提出

※ 第1回専門委員会は、コンサル委託前に実施。

3 コンサル委託業務（公募型プロポーザル）

- (1) 業務名 石見神楽伝承方法提案業務
- (2) 業務内容 専門委員会からの提言を具現化するための仕組みや方法等の提案（検討課題の整理・取りまとめ、専門委員会の開催支援等含む）
- (3) 委託期間 令和6年6月~12月

4 予算内訳（石見神楽伝承内容検討事業 6,516千円）

- ・コンサル委託料 5,813千円
- ・専門検討委員会開催経費他 703千円